



「安倍内閣退陣！」国民の怒りの声は止まない



北村さん

支持率は危険水域だが

失脚しても残る「安倍政治」

支持率が落ち続ける安倍政権ですが、このまま安倍一強政治が終わることになるのでしょうか。安倍離れが進んでいるのか、内閣改組人事をどう見るのか、国政へ意欲を見せる小池都知事の思惑とは何か。そして安倍一強政治に私たちはどのように立ち向かうべきなのか。週刊金曜日発行人の北村肇さんに寄稿いただきました。

永田町に激震が走りまし
た。震源は『毎日新聞』の7
月24日付朝刊。「安倍政権の
支持率は26%」という世論調
査結果が報じられたのです

は文字通り政権の危険水域で
ある「支持率20%代」に落ち
込んだということです。「安
倍一強」時代の終焉が見えて
きたことは間違いないでしょ
う。しかし、これが「安倍政
治」の終わりを意味している
かというと、残念ながらそう
ではありません。その理由と
これからのたたかいについて
考えてみます。

まず、『毎日』記事の一
部を引用します。
**安倍3選に
反対が62%**
〈安倍内閣の支持率は26%
で、6月の前回調査から10ポ
イント減。不支持率は12ポイ
ント増の56%だった。……安
倍晋三首相の自民党総裁任期
が来年9月に終わることを踏
まえ、「代わった方がよい」
との回答は62%（3月調査は

41%）で、3期目も「総裁を
続けた方がよい」の23%（同
45%）を大きく上回った〉
〈支持率は2カ月連続で10
ポイント下落し、与党内では
憲法改正論議への影響を懸念
する声も出始めた。今回の調
査で、首相が目指す20年の改
正憲法施行について、議論を
「急ぐ必要はない」は66%、
「急ぐべきだ」は22%。首相
が5月に改憲方針を表明した
後、慎重論は調査のたびに増
えている〉
官邸に危機感をもちたらし
めた理由は、「26%」だけではな
く、安倍首相の総裁3選への
反対が62%に達したことにあ
ります。自民党は都議選の歴
史的敗北に続き仙台市長選で

も敗れました。その背景に「安
倍離れ」のあったことが世論
調査で明らかになったので
す。内閣改組、しかも清新さ
もサプライズもない改組で支
持率が劇的に回復することは
ありえず、自民党内でポスト
安倍の動きが公然化するの
は避けられません。

「安倍一強」は終わってもたたかいは終わらない

週刊金曜日発行人 北村 肇

カギにぎる小池知事

国民ファーストが第一党か

そして、今後の政局を占う
ためには、もう一人のキーパ
ーソンに焦点を当てなくては
なりません。小池百合子東京
都知事です。
小池氏は、安倍氏が勝った
12年の自民党総裁選で石破氏
を推しました。都知事選以来、
小池氏と行動をともにする若
狭勝氏も石破派です。実は、
自民党周辺から「次期首相は
石破」という声が漏れてきま

す。わずか19人の派閥ですが、
もし小池氏が「石破支持」を
打ち出せば、小池氏とは関係
の深い二階氏が乗るのではな
いか、むしろ都議会与党の公
明党も支援に回る——そんな
見立てがあるのです。
『毎日』の世論調査では、
都民ファーストの会の国政進
出についても聞いています。
「期待しない」が48%で、「期
待する」の36%を上回ってい

ます。しかし逆からみれば3
人に1人は期待しているので
す。ちなみに自民党の支持率
は25%、民進党は5%。これ
に「支持政党なし」は52%
です。仮にこのうちの半数
が国民ファーストの会に投票
すれば、あつという間に自民
党を越えて第一党になってし
まいます。

右向け右の号令で全員が一丸
となって行動する者づくり
をめざしたのです。だから、
ラジオ体操は戦後、GHQに
よって禁止されました。19
51年（昭和26年）に「平和
の象徴」として復活しました
が、その出自をたどれば右派
政治家・小池氏の意図がほの
みえてきます。

右派政権が 続く危険性

つまり、小池新党ができれば保守（それも右派）二大政党
の誕生となるのです。民進党
が倒れたとしても次にはまた
右派政権が誕生する危険性が
あるということです。米国の

カギは麻生派と二階派 安倍降ろしで蠢く永田町

す。同党を巻き込むために「9
条加憲」を持ち出した安倍氏
ののろみは完全に崩れたの
です。さらに、事実上ポスト
安倍を宣言してい
る石破茂氏が、改
憲に前のめりの安
倍氏に対する批判
を強めるのは確実
で、改憲を旗印に
してきた安倍政権
が、改憲によって
倒れるという皮肉
な結果も考えられ
ます。

ここで、自民党
派閥の現況をみて
みます。安倍氏の
出身派閥である清
和政策研究会（細
田派）が96人、以
下、志公会（麻生
派）59人、平成研究会（額賀
派）55人、宏池会（岸田派）
46人、志師会（二階派）43人、
水月会（石破派）19人、近未

いずれにしても、ポイント
は麻生派と二階派です。麻生
太郎氏は副総理、二階俊博氏
は自民党幹事長ですから、表

向きは政権支持のポーズをと
るしかありません。再任とな
った両氏とも明確に「安倍首
相を支える」と表明していま
す。しかし、永田町ではこん
なことが囁かれています。
「麻生は、本心では安倍や
菅義偉官房長官のことを快く
思っていない。安倍がずっこ
けたら自分がキングメーカー
になろうと虎視眈々と狙って
いる」「二階は安倍を見限っ
ていて、麻生や石破とも相談
している。彼が安倍降ろしに
動けば政権は終わりだ」
かりに細田派と石原派以外
の派閥が手を組めば多数派と
なり、公明党は勝ち馬に乗る
でしょうから一瞬にして安倍
政権は終わりです。上記のよ
うなウワサが流れるのも、そ
の可能性が高まっている証拠
です。加計問題や稲田朋美防
衛相の「遅すぎる更迭」など
がからんでいるのはいうまで
ありません。

市民・野党共闘の大きくなる

ために戦争をする国をめざ
し、市民の人権をことごとく
侵害し、福祉予算を削り大企
業・富裕層の利益だけを追求
する、そうした「安倍政治」
が安倍失脚後も生き残ってい
まう恐れがあるのです
だから、まずは安倍政権打
倒のたたかいを展開するのは
当然ですが、並行してリベラ
ル派を中心にした野党共闘を
すすめる必要はあります。
そこに心ある市民が集って
もらい、市民・野党共闘の大き
なうねりをつくりあげる。こ
れなくして、憲法に基づいた
平和ですべての人の人権が守
られる社会の構築はありえな
いのです。（8月4日脱稿）